

Principal Correspondence

マンスリーリリベールが200号になりました

ついにマンスリーリリベール(月刊)も200号を迎えました！

開校して200ヵ月となるわけです。これは創立16年と7ヶ月(17年目)ということになります。

この200ヵ月の間、私は一日もリリベール小学校を考えない日はありませんでした。常に課題を見つけ課題を考えてきました。学校のカリキュラムや行事、プログラムは変わってきましたが、下記にあります第1号の設立趣意書とは全くぶれていないのがお分かりいただけると思います。

しかし17年前は私も職員も不安の船出でした。茨城県には私立小学校という概念すらほとんど無きに等しかったですし(リリベールが何を？と注目されました)、果たして英国の姉妹校でやっているようなリーダーシップ教育が実現できるのか、それよりもまず児童が集まってくるのかさえ分かりませんでした。

おかげさまで「いつもあたたかく、いつもあたらしく。」の教育目標の下、リリベールの幼稚園・保育園の年長さんはじめ、リリベールの卒園児など、1年生から6年生まで総勢84名の児童が集まっての旅立ちとなりました。下記は1号の文書です。

2004年4月、いよいよリリベール小学校の歴史が始まります。

世界中どこにも無かったような小学校。ユニークな学校ですが将来、世界の各分野で活躍し社会に貢献できるような、そんな人を育てることを目標に教職員一同、私達のなしうる限りの事をして参ります。ここに設立の宣言を行います。

人の一生を左右する、最も大事な事を学ぶ幼少期。
この時期に子ども達は、愛情に包まれ、人間を信じ、
人生への夢や希望をふくらませ、
慈愛の心と豊かな感性を育まねばならぬ。
自立した人になるために、困難を乗り越えて、
たくましく生きる力を育てよう。
創意工夫し自ら学ぶ学習意欲と学習力を育てよう。
リリベールの子供達は**指導力の基礎**を培い、
高い志と勇気をもって社会に貢献する。
毅然として魁となる人を育てたい。
この学校はこの方針・理念の下に創立する。

校訓は「自立・創造・リーダーシップ」です。

将来お子様が大人になった時に「この学校に入れてくれてありがとう」と保護者の方に感謝できるような学校であるように頑張ります。学校と児童と保護者の皆様がしっかりと手を繋いで、さあ、新しい歴史の第一歩を踏み出しましょう。

私たちは次の300号の時も、きっと変わらずリリベールであり続けます。



Principal Correspondence

語学を始めるには

脳の「言語野」が発達のピークを迎えるのは8～10歳と言われます。

賢い子供に育てたいと願う親御さんは「わが子に英語が話せるようになってほしい」と思っているのではないのでしょうか？

親の世代は、中学校1年生で初めて英語に触れて、文法中心の英語教育を受けてきました。しかし、コミュニケーションツールとして自由に使いこなせる人は、少数派だと思います。

現在は小学校3年生から英語教育が導入される時代です。今まで楽しむだけだった5, 6年生の英語活動は教科書が導入されて成績が付くようになりました。



子どもが英語や外国語を効率よく身に着けるのは8～10歳が黄金期です。

これは脳の発達の過程から見ると正しいと言えるでしょう（アウトドア育脳のすすめ・東北大学教授・滝晴之・山と渓谷社）。反対に早期教育と言って2～3歳から英語教室に入れて英才教育を開始したからペラペラになるはずというのもやや勘違いです。



英語は楽しいものという土台をつくるには幼児期からが適切ですが、本格的に頭に入ってくるのは8～10歳。

コミュニケーション能力を司る脳の前頭前野が思春期に向って発達していくからです。各学童クラブでは、この秋からコンピューターとプログラムを用意し楽しみながら学べる環境を整備していきます。運動・アート・音楽・英語も発達段階に沿って触れるチャンスをつくります。

